取扱注意

名簿貼付欄		状態	状態0	状態1	状態2	状態3	状態4	状態5	状態6
【　】年【　】組		外出状況	外出できている					外出できていない	
1	いちろう	登校状況	毎日登校できている	週1～2日欠席	週3日以上欠席	登校できていない			
2	かつみ	状況の詳細	**ＳＯＳサイン（※1）** ・身体の不調を訴える　・いつも眠そうである　・やる気がない　・友達とのトラブルが多い ・学習が遅れている　・ルールを守らない　など 五十嵐哲也ら編著『学校で気になる子どものサイン』より	・遅刻や早退が週半分以上ある。 ・保健室や別室をしばしば利用している。	・保健室や別室を週半分以上利用している。	・学校以外の場所（教育支援センター・フリースクール等）には定期的に通うことができている。	・学校以外の場所（教育支援センター・フリースクール等）へ定期的に通うことは難しいが、外出は比較的自由にできている。	・家では落ち着いた生活ができている。 ・家族と関わることができている。	・家ではほとんど自室から出ない。 ・家族と関わることができていない。 ・心理的に不安定で、生活リズムの乱れも大きい。
3	こういち								
4	さとし								
5	さみ								
6	たかお		SOSサインの有無を確認 SOSサインなし	SOSサインあり					
7	ちほ								
8	ともこ								
9	ともふみ								
10	なおき								
11	なおみ								
12	ひでこ								
13	ひろふみ								
14	みのる								
15	りな								
16	りょう								
17	るみこ								
18	ようへい								
19		子供の氏名	いちろう ひろふみ ともふみ	かつみ こういち	ちほ るみこ		みのる		りな
20									
21									
22									
23									
24		対応策	□ 教育相談を行い、子供の心に寄り添って話を聴くという関わりを重ねる。 □ 挨拶、声掛け、励まし、賞賛、対話及び授業や行事等を通した個と集団への働き掛けを行う。 □ よいところを褒めたり認めたりすることで自己肯定感を高める。 □ 不登校のリスク因子を考慮し観察を行う。	□ 安心して登校できるよう、電話等で声掛けをする。 □ 病気欠席の連絡を受けたら、病状や医療機関の受診状況、その日の過ごし方を尋ねるなどして子供の様子を把握する。 □ 子供の様子を学年主任、教育相談担当、管理職等と情報共有する。 □ 必要に応じて支援チーム会議を開催する。	□ 子供に声を掛け、じっくりと寄り添う。 □ 保護者に、子供の様子が心配であることを伝え、家庭での様子を聞く。 □ 欠席理由、対応状況等を管理職に報告する。 □ 支援チーム会議を開催する。	□ 子供が通える場所に教職員が出向いて学校の様子を伝えたり、学習支援を行ったりするなどして、再登校に向けた準備を行う。 □ 子供の思いを確認したあと、時差登校や別室登校など無理のない登校方法を提案する。	□ 教育支援センターや別室登校、放課後登校や行事への参加などを本人や保護者に勧める。 □ 無理強いはせず、少し間をおいて登校や行事への参加などを再度勧める。	□ 子供の興味に従って、散歩や買い物など、できる限り外出を勧める。 □ 何が気になって外出できないのかを聞くなど、相談にのるとともに、家でできる活動も考える。	□ 十分な睡眠時間や食事の確保など、生活の安定を最優先とする。 □ 医療や福祉などの専門機関との連携を図る。
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									
36									
37									
38									
39									
40									
41									
42									
43		役立つ資料	「子どもの安心につながる教育相談」	「始めよう！支える生徒指導」	「子どもの支援者であるすべての教師のために」	「子どもが欠席したら、どう動く？」	「長期欠席・不登校対策スタンダード（本編）」		
44									
45									
46									
47									
48									

ＳＯＳの要因（３つの観点から）

心理面
「学力・学習」「情緒」「社交性」
「集団行動」「自己有用感」
「自己肯定感」「関心」「意欲」
「過去の経験」

身体・健康面
「睡眠」「食事」「運動」
「疾患」「体調不良」
「特別な教育的ニーズ」

社会・環境面
「児童生徒間の関係」「教職員との関係」「学校生活」「家族関係」
「家庭背景」「地域での人間関係」

SOSの要因を3つの観点から検討

どの観点から対応を始めるか検討

心理面の対応から	社会・環境面の対応から	身体・健康面の対応から
さとし りょう たかお	さみ ともこ なおき	ひでこ なおみ ようへい

優先的に対応する子供の選定と対応策の検討

（例）
- □ 観察・記録
- □ 情報共有
- □ 教育相談
- □ 声掛け
- □ 仲間づくりを意識した取組
- □ 安心できる場所の提供
- □ SC、SSWとの連携
- □ 支援チームの発足、チーム会議
- □ 相談機関紹介

対応記入欄（いつ・だれが・なにを）

【　さとし　】への対応	【　　】への対応	【　　】への対応
☆いつ 1．明日から 2．来週までに 3．６月中	☆いつ	☆いつ
☆だれが 1．担任、教科担任、養護教諭 2．進路担当、担任、養護教諭 3．担任、学年主任 養護教諭、教育相談担当	☆だれが	☆だれが
☆なにを 1．声掛けと情報共有を行う。 2．学習や進路について悩みを聴く。 3．安心して学習できる場所を提供する。	☆なにを	☆なにを

【子供の素因】
発達の遅れや偏り
不安が強く過敏（HSP）
健康上で配慮が必要・精神疾患

【環境因子】
ヤングケアラー
一人親家庭・両親が不和
学級崩壊・小規模校・担任との関係
課題の負担

小柳憲司著『不登校の子どもを支える』より

※1 SOSサインは、文部科学省の調査結果を基に、不登校につながる可能性が高いと考えられるものを挙げています。

アセスメントツール（記入例）